

3-1. 八戸市（青森県八戸市）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

人口 238,835 人（平成 26 年 1 月末現在）

面積 305.40km²

種差海岸概要

うみねこの繁殖地である蕪島を起点として南東に伸びる海岸線。白砂青松、大小の岩礁、小島が交互に続き、高山植物及び海浜植物の宝庫でもある。平成 25 年 5 月に三陸復興国立公園に指定。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

○派遣申請の背景

種差海岸は平成 25 年 5 月に国立公園に指定され、市内外から注目され始めた。それとともに、ガイドの要請が昨年度に比べ倍増し、全ての要請を受け入れられない状況であった。ガイドの絶対数が不足している状況であり、ガイドのスキルアップが課題である。

このことから、ガイドの仕事を多くの方に知っていただき、興味を持ってもらうこと。そして、来訪者に再訪していただけるよう、スキルアップを図っていくことを目的にアドバイザー派遣事業を行った。

○これまでの取り組み

- ・ガイド同士の情報交換会実施。



(2) アドバイザー派遣の概要

日 時	平成 26 年 2 月 7 日（金）～平成 26 年 2 月 8 日（土）
場 所	三陸復興国立公園 種差海岸
ア ド バ イ ザ ー	NPO 法人片品・山と森の学校 理事／チーフインタープリター 安類 智仁 氏
参 加 者	第 1 部 87 名 第 2 部 35 名
スケジュール・方法	【1 日目】 ・現地視察及び、既存ガイドから聞き取り 【2 日目】 ・講習会第 1 部「尾瀬プロガイドが語る！～地域の宝をまもり・つたえる～」 ・講習会第 2 部「ガイドを観光資源にするには」

(3) アドバイスの内容

自然ガイドのあり方について

- ・ガイドの役割、求められるもの（知識＜安全性、時間管理）
- ・地域間の連携の必要性（ガイドは地域の人と引き合わせるという役割も持つ）
- ・ガイドの情報発信方法（AGT への情報発信、PR イベントへの参加）



(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・自然ガイドへの興味が高まった。
- ・ガイドは地域の魅力を伝える一つの手段であることの認識
- ・地域間の連携が必要であることの認識
- ・種差海岸の魅力の再認識

●今後の期待される効果

- ・今回の講習会で自然ガイドへ興味を持った方々が、ガイドとして活動できるよう学ぶ場をつくる。

●今後の取り組み

- ・新規ガイドの育成及び既存ガイドのスキルアップを図るため、勉強会と先進地視察を実施。
- ・ガイド同士の情報交換会を実施

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

自然ガイドは、地域宣伝マンであること。
地域間で連携することの重要性。

●その他感想

- ・講習会を通し、たくさんの方に自然ガイドに興味をもっていただいた。結果、新規ガイドの発掘に繋がった。今後、ガイドとして活動できるよう、育成事業に繋げて参りたい。また、今後地域間の連携を強くし、地域魅力発信に努めて参りたい。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

NPO 法人片品・山と森の学校 理事／チーフインタープリター 安類 智仁 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

青森県八戸市の東部に位置する種差海岸は、平成 25 年 5 月に三陸復興国立公園の一部に指定され、本地域の東日本大震災からの復興に貢献する役割を担っている。また同年には「三陸ジオパーク」にも指定され、長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」の起点でもあることから、その知名度は急に知られることになった。一方で利用拠点の整備やツアーコースとプログラム開発、またガイド育成といった受入全般において体制づくりが遅れている。

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

種差海岸は三陸特有のリアス式海岸とは異なり、比較的緩やかな地形からなる海岸線だが、荒々しい風と波が叩きつける海岸だけでなく、目の細かな鳴き砂のある大須賀海岸、放牧によって維持されてきた芝生、風衝地特有の植物群落など、様々な要素の自然がコンパクトにまとまり変化に富んだ地域である。また海岸北部のウミネコ繁殖地としても有名な蕪島は国の天然記念物にも指定されており、周辺観光ルートの一つとして多くの人が現在も訪れている。このほか自然観光資源ではないものの、国の重要無形民俗文化財である伝統芸能「えんぶり」や市街地での「朝市」は遠方からの観光客にも好まれている。

●アドバイス（講義等）の概要

八戸市では受入体制づくりの一つとしてガイド育成に着手したばかりである。本地域では国立公園指定前から地元ボランティアによる自然解説や、個人ガイドによる活動が行われてきたが、今回のアドバイスを通じて従来のガイド団体のネットワーク構築・相互交流・スキルアップをはかるとともに、地元住民のガイド活動への参加を促している。

このため、アドバイスではガイド活動の楽しさを感じてもらい、エコツーリズムにおけるガイドの役割や地元への貢献内容などを尾瀬での事例を使いながら紹介を行った。

●全体構想への取組状況・意向について

本地域はエコツーリズム黎明期であり、同様な意見交換・検討を行う推進体制が存在しないため、少なくとも八戸市単独では全体構想への取組みは予定していない。しかし、長距離自然歩道を軸にした地域だけに、全体構想に伴うエコツアー送迎の規制緩和などは今後の検討課題としてあげられると思われる。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

派遣 1 日目に訪れた蕪島と種差海岸は様々な自然の要素がコンパクトにまとまった地域であり、日本人が持っている原風景のイメージに近い姿を持っている。東北新幹線八戸駅から車で約 20 分という距離感にある。また自然度の高い海岸線からほんの 50m 内陸側では民家があり、人間活動が行われているが、こうした距離にあって種差海岸の自然度が高いまま残されている事に驚いた。海岸線には国立公園指定に伴う歩道が整備されたものの、余計な人工物は全くなく、現地の雰囲気を変えないよう配慮されていた。

種差海岸では環境省や地元自治体の関わりだけでなく、地元ボランティアグループがいくつか存在し、芝生の維持管理（草刈り）、美化清掃やモニタリング調査が行われている。また、ガイド活動においてもこれらの団体だけでなく、数人の個人ガイドがアクティブに活動するなど、種差海岸と関係する様々な主体が見えやすく存在してい

る。

ガイド団体同士や個人ガイドとの間では、主義・主張の違いによる隔たりが感じられたが、その大半は交流不足・情報不足によるものと思われるため、八戸市がガイドの連絡会議を設置し月 1 回ペースで情報共有を図ろうとしている点は良いきっかけとなると思われる。こうした場でお互いの活動について認識を深め、種差海岸全体を良くするためのガイドルール（合意事項）づくりや、ガイドのスキルアップのための教本づくりなどが次のステップにつながるとされる。現時点ではこうした事務局運営はニュートラルな立場にある八戸市が最適と思われる。

一方、受入体制づくりにあたっては、より多くの主体が参画した場を設定する必要がある。ここでは種差海岸全体の利用計画を検討するだけでなく、種差海岸と関わる全ての主体について、この地域のエコツーリズム推進のための役割を明確にし、関わりの薄い地元住民に対してもこうした取組みがわかるよう配慮することで、地域全体での受入体制づくりができると思われる。

視察や意見交換会、また講習会後にも様々な方と話したが、自然だけでなく、文化的な奥深さや、人懐っこい人間性に触れることができた。エコツーリズム推進にとって最も大切な「人間の魅力」を最大限に活かしていただきたいと思う。